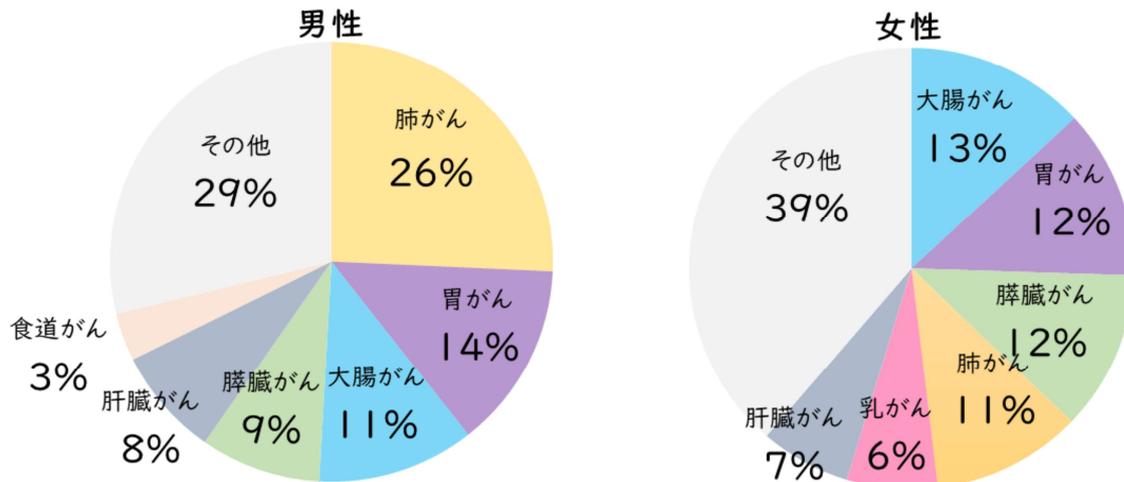


富田林市のがん対策：本市のがんの状況

R2年度 富田林市 悪性新生物の部位別死亡者数割合(%)



令和2年度の人口動態統計より全国・大阪府・富田林市ともに死亡要因の第1位は「悪性新生物」、がんです。令和2年度の悪性新生物の部位別死亡者数の割合を見ますと、男性では肺がんが最も多く、ついで胃がん、大腸がんとなっています。女性では、大腸がんがもっとも多く、次いで胃がん、膵臓がん、肺がんとなっています。

がんは初期の段階では自覚症状がほとんどありません。定期的に検診を受けることで、進行していないがんを発見し、適切に治療することで高い確率で治すことができます。

富田林市のがん対策：がん検診事業

胃 バリウム	胃がん検診(バリウム) 問診 胃部エックス線検査	肺	肺がん検診(結核健診含む) 問診 胸部エックス線検査	乳	乳がん検診 問診 マンモグラフィ(乳房エックス線検査)
胃 カメラ	胃がん検診(カラ) 問診 胃内視鏡検査	大腸	大腸がん検診 問診 免疫便潜血検査2日法(検便)	子宮	子宮頸がん検診 問診、視診、内診、頸部細胞診

実施場所 内容によって受けられる場所が変わります(令和4年11月現在)

- ・保健センター(検診車での検診)
- ・市内指定医療機関(大腸がん・乳がん・子宮がん・胃内視鏡)
- ・富田林病院健診センター
- ・新堂診療所

富田林市では胃・肺・大腸・乳・子宮がん検診をさまざまな形で実施しています。保健センターにおける検診車での健診、指定医療機関による個別検診、また、特定健康診査や後期高齢者検診とセットで受けることができるセット健診や乳・子宮がん検診をセットで受けることができるレディース検診があります。申し込み方法や受け方などについては広報やWEBサイト、また4月号広報と一緒に配布される「保健事業案内」にて周知しています。

本市におけるがん検診の受診率については、令和元年度、2年度はコロナ禍の影響もあり、全体的に受診数が減少しましたが、令和3年度は少しずつ受診者数も増えてきている傾向にあります。

がんミニドックの日曜日開催や先ほどもご紹介しました、特定健診などと同時に受診できるセット健診、乳がん検診と子宮がん検診を同時に受診できるレディース検診に加え、医療機関における胃内視鏡検査や大腸がん検診の個別検診など、さまざまな形で検診機会の拡充を進めてきました。また、WEBでの検診の申し込みもできます。

今後も、受診率の向上をめざし、市民の方ががん検診を受診することの必要性を理解し、定期的に受診することができるようにさまざまな方法での啓発や周知を行い、また受けやすい環境整備や体制づくりをすすめていきます。

富田林病院建替え

昭和52年10月に開院した富田林病院ですが、建物の老朽化に伴い、富田林市が建替費用の約半分を補助して、大阪府済生会が建設工事を進め、令和3年11月に大阪府済生会富田林病院として、グランドオープンしました。



- ・ 病床数 260床（急性期病床200床、包括ケア病床50床、産科病床10床）

- ・ 診療科目（18診療科）

内科、内科、腎臓内科、消化器内科、小児科、外科、整形 外科、形成外科、循環器脳神経外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科

- ・ 令和3年度患者数

入院患者 延べ 84,833人

通院患者 延べ 156,341人

分娩件数 189件



免震構造（積層ゴム）



感染診察室

- ・ 本市の救急医療の中心的な役割を担っており、令和3年度救急要請件数5,991件のうち、受入件数5,583件、応需率（救急要請件数のうち、受入できた件数の割合）93.2%と高い救急受入を達成。
- ・ 免震構造を備えた建物で、大規模地震等発生時にも本市の災害医療センターとして医療機能を維持。
- ・ 新型コロナウイルス等の未知の感染症への対応も想定した陰圧化できる感染診察室や個室病床も2室備えています。
- ・ 南河内南部（富田林市・河内長野市、大阪狭山市、河南町、太子町、千早赤阪村）の小児科の休日診療を実施。

富田林病院は、昭和45年3月に市内唯一の公的医療機関であった大阪警察病院富田林分院が廃院となり、市として地域医療の確保が大きな課題となりました。当時、土地区画整理事業を行ってありました金剛東地区に、地域の中核病院として、富田林市と大阪府が共同で建設し、開設者は富田林市長、管理運営が大阪府済生会という「公設民営」の形で、昭和52年10月に、富田林病院を開院いたしました。

しかし、経年による施設や設備の老朽化が進み、良質な医療サービスの提供に支障をきたしかねない状態となっていたことから、当時、富田林病院の指定管理者であった大阪府済生会に対し、富田林病院の建て替えにつきまして、その内容や様々な課題についての協議を重ねました。

結果、開設者を大阪府済生会に譲渡したうえで、富田林市が建替費用の約半分を補助して、大阪府済生会が建設工事を進めることとなり、平成29年2月に大阪府済生会と建替えに係る協定を締結しました。

その協定では、大阪府済生会が39年以上建替え後の新病院を運営すること、市の政策的医療である救急医療、小児医療、災害時医療を積極的に提供することなどの取り決めがされました。

そして、建設工事が進められ、令和3年11月に新病院がグランドオープンしました。

新病院の医療機能は、病床数が260床、うち200床を「一般急性期」、50床を一般急性期を脱した方がリハビリ等で入院する「包括ケア病床」、残り10床を、分娩等の「産科病床」として使用しています。

診療科目としましては、内科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科の18診療科を標榜しており、本市の中核的な医療機関としての役割を担っています。

患者数については、昨年度（令和3年度）で入院患者延べ84,883人、通院（外来）患者延べ156,341人、分娩件数189件と多くの方がご利用いただいています。

また、救急についても、救急要請件数5,991件のうち、受入件数5,583件、救急要請件数のうち受入できた割合である応需率は93.2%と高い救急受入実績を達成しています。

さらに、本市民だけではなく、南河内南部（富田林市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村）の小児科の休日急病診療機能も担っています。

また、地震等の大規模災害発生時にも医療提供体制の継続ができるよう病院建物は、免震構造であり自家発電設備も備えるとともに、新型コロナウイルスなどの未知の感染症への対応も想定した、陰圧化できる感染診察室や個室病床も2室備えるなど、医療提供体制の充実が図られています。